

能面の分類

能面は基本的なものだけでも約60種類あり、変形面、派生面を含めると約250種類になります。内藤記念館では、所蔵する能面を相貌(そうぼう)様式や創作された時代順によって6系統に分類しています。

●内藤家伝来の能面での作品例

おきなけい
翁系

◎翁面は、『翁』という曲目のみに使います。『翁』は天下泰平・五穀豊穰・子孫繁栄・国土安穩を祈祷する特別な曲目です。切顎(きりあご)という他の能面には見られない大きな特徴があります。

きりあご
【切顎】下顎の部分を切り離し、飾り紐で結ぶ造形



▲白式尉



▲黒式尉

きしんけい
鬼神系

◎“鬼神”とは悪霊や疫鬼を追い払う強い力を持つ神で、激情の瞬間を巧みにとらえた相貌です。眼や歯列には、金具や金泥をほどこし神威を表しています。

きんてい
【金泥】金を膠(にかわ)でといて絵具状にしたもの



▲大飛出



▲長霊瘴見

じょうけい
尉系

◎能では男の老人の面を“尉”と呼びます。頭髪を植毛(しょくもう)して結んでいます。上歯列だけで、鼻下には描かれた髭のある上品な老人と、上下に歯列があり、鼻下にも植毛した髭のある庶民的な老人の二つのタイプがあります。



▲小尉



▲朝倉尉

おとこけい
男系

◎男面は男神像から創作されたと考えられますが、平家の公達や源氏の武将を主人公にした曲目にも使われます。公達を表す「中将」、武将を表す「平太」、前髪に特徴のある「喝食」、永遠の若さを象徴する「童子」など多様な面が含まれます。



▲中将



▲平太

おんなけい
女系

◎女面は、女神像をモデルに作られたと考えられます。その後、能の曲目が大成されるとともに、人間の顔の写実を超え、象徴化、幽玄化されていきました。若い女面、中年の女面、老人の女面の三種類に大別できます。



▲小面



▲深井

りょうけい
霊系

◎霊面には、神霊的な性格をもった面と人間の怨霊的な性格をもった面の二種類がありますが、使用する上で、神と怨霊の両方に使われる面もあります。眼や歯列には、金具や金泥をほどこし、霊的な力を表しています。






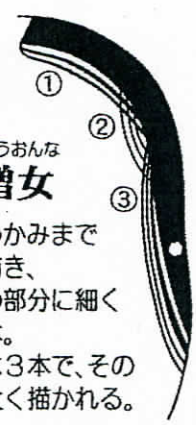
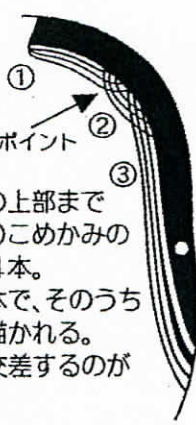

▲怪士



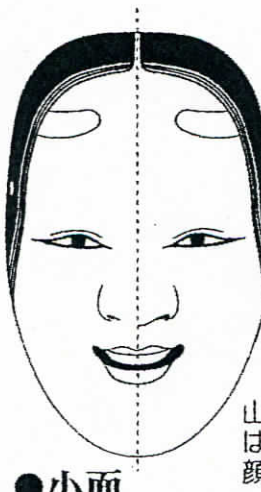
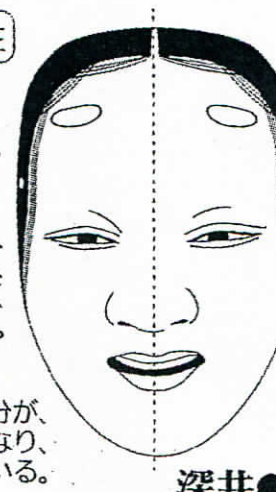
▲霊女

能面の造形

◎女面：毛描による見分け方

| | | |
|---|---|--|
| <p>こおもて</p> <p>●小面</p> <p>額中央から左右へ3本の太めの毛筋が描かれる。</p>  | <p>まごじろう</p> <p>●孫次郎</p> <p>額からこめかみのところまで2本描き、その下が3本か4本に別れて描かれる。</p> <p>★ポイント</p>  | <p>まんび</p> <p>●万媚</p> <p>ひも穴のところまで3本描き、その下で1本が交差して3本か4本に描かれる。</p> <p>★ポイント</p>  |
| <p>わかおんな そうおんな</p> <p>●若女・増女</p> <p>①額からこめかみまで太めに2本描き、 ②こめかみの部分に細く3本から4本。 ③頬の横には3本で、そのうち1本は太く描かれる。</p>  | <p>ふかい</p> <p>●深井</p> <p>★ポイント</p> <p>①こめかみの上部まで3本描き、②こめかみの所は3本か4本。 ③頬には3本で、そのうち1本が太く描かれる。高い位置で交差するのがポイント。</p>  | <p>しゃくみ</p> <p>●曲見</p> <p>①額中央のところには毛筋がなく、やや下から3本描かれる。 ②③その他は、「深井」とほぼ同じ。</p> <p>★ポイント</p>  |

◎女面：年齢を表すポイント

| | | |
|--|--|---|
| <p>若い女性</p>  <p>●小面</p> | <p>本数が少なく、太く整っている。</p> <p>髪 (毛描)</p> <p>山になる部分が、顔の中心に寄り、黒目の部分が四角になっている。</p> <p>眼</p> <p>山になる部分がはっきりとし、顔の中心に寄っている。</p> <p>唇</p> | <p>中年の女性</p>  <p>●深井</p> <p>本数が多く、分かれている。</p> <p>山になる部分が、中心から離れ、黒目の部分が丸くなっている。</p> <p>山になる部分が、なだらかになり、中心から離れている。</p> |
|--|--|---|

能の番組構成「五番立」

江戸時代、能が演じられる時は、一日に「五番立」(ごばんだて)の番組を作るのが一般的でした。俗に“神、男、女、狂、鬼”(しん、なん、によ、きょう、き)といわれ、神の能の祝言性(しゅうげんせい)に始まり、だんだんと人間の情念のドラマに深化していき、鬼の能で祝言性に戻るといった構成になっています。

○「五番立」の前に「翁」(おきな)を演ずることを「翁付き」と言い、特別な場合に行われます。

| ◆曲籍◆ | 曲目 | ●前ジテ※1 主人公の役柄 | 使用される面 (面の系統)※3 | ●後ジテ※2 主人公の役柄 | 使用される面 (面の系統) |
|---|-----------------------|------------------|-------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 神 しょばんめ 初番目 ◆ わきのう <脇能> | たかさご 高砂 | ●木守の老人 | 小尉(尉系) | ●住吉明神 | かんたんおとこ 邯鄲男(男系) |
| | かも 賀茂 | ●里の女 | 増女(女系) | ひけいかつ ●別雷の神 | 大飛出(鬼神系) |
| ○神社仏閣の縁起を語ったり、神を主人公とした祝言性の強い作品群 | | | | | |
| 男 にばんめ 二番目 ◆ しゅらもの <修羅物> | あつもり 敦盛 | ●里の男 | ひためん 直面※4 | ●平敦盛の霊 | 敦盛・十六・童子・中将 (男系) |
| | やしま 八島 | ●老漁夫 | 朝倉尉・三光尉・笑尉 (尉系) | ●源義経の霊 | 平太・今若(男系) |
| ○源氏や平家の武将を主人公に、死後も修羅道で苦しむ様子を描いた作品群 | | | | | |
| 女 さんばんめ 三番目 ◆ かづらもの <髪物> | いづつ 井筒 | ●里の女 | 小面・若女・増女・ 孫次郎・深井(女系) | ●井筒の女の霊 | 前シテと同じ面 |
| | ていか 定家 | ●都の女 | 小面・若女・増女・ 深井・曲見(女系) | ●式子内親王の霊 | 泥眼・霊女・瘦女 (霊系) |
| ○王朝文学の登場人物を中心に優美な女性たちを主人公とする作品群 | | | | | |
| 狂 よばんめ 四番目 ◆ ざつのう <雑能> | あおいのうえ 葵上 | ●六条御息所の霊 | 泥眼(霊系) | [鬼相] ●六条御息所の霊 | 般若(霊系) |
| | あこざ 阿漕 | ●浦の老人 | 朝倉尉・三光尉・笑尉 (尉系) | ●漁師の霊 | やせおとこ かりず 瘦男・蛙(霊系) |
| ○物狂いの能をはじめ、執心、怨霊、人情など他のジャンルに属さない作品群 | | | | | |
| 鬼 ごばんめ 五番目 ◆ きりのう <切能> | くらまでんく 鞍馬天狗 | やまぶし ●山伏 | 直面※4 | くらまやま おおてんく ●鞍馬山の犬天狗 | おおべしみ 大癒見(鬼神系) |
| | もみじがり 紅葉狩 | じょうろう ●上臈 | 若女・増女・近江女・ 万媚(女系) | ●鬼女 | 蟹しかみ(鬼神系) 般若(霊系) |
| ○鬼や龍神などを主人公に、派手な演出で動きの多い舞台を見せる作品群 | | | | | |

※1、2:「シテ」とは主役のことです。一つの曲目は、前後二つの場面に別れる場合が多く、それぞれの主人公を「前ジテ(まえじて)」、「後ジテ(のちじて)」といいます。

※3:左ページにある「能面の分類」による系統です。 ※4:面をつけずに演ずることを、「直面」(ひためん)といいます。

参考:『能楽ハンドブック』改訂版(三省堂2000)、『能面-美・形・用-』中村保雄著(河原書店)、『能・狂言事典』(平凡社1987)

「能は能面の選択からはじまる」とも言われています。上記の表を見ても分かるように、一つの役柄でも年齢や雰囲気の違いで選ばれることもあります。それを決めるのは、演者であり、その工夫、演出は能面を選ぶときにすでにはじまっています。

宮崎県地方史研究紀要 第三十三輯

—ふるさと再発見！—

—ときの流れに 夢がふくらむ—

平成十九年三月二十四日 印刷
平成十九年三月三十一日 発行

編集 宮崎県立図書館
刊行

〒八〇一〇〇三

宮崎市船塚三丁目二二〇番地一

TEL〇九八五―二九―二九一一

印刷 宮崎プリント社

〒八〇一〇八七四

宮崎市昭和町六九

TEL〇九八五―二三―七八一一

(非売品)

No.
